

		I 期（4 月～5 月）	II 期（6 月～8 月）	III 期（9 月～1 0 月）	IV 期（1 1 月～1 2 月）	V 期（1 月～3 月）
子どもの姿と育てたい側面		○新しい生活に不安や緊張を感じている子どもに対しては保育者に親しみをもち安心感や信頼感が持てるようにしていきたい。 ○一人で遊ぶことが多く、同じ場所にいても友だちとのかわりがあり見られない子どもがいる。一人ひとりが安心できる居場所を見つけ、自分から遊び出せるようにしていきたい。 ○園生活における一日のおおよその流れがわかり、自分で出来ることは自分でしようとする意欲を育てたい。	○生活範囲が広がり、活発に活動するようになるが危険な遊び方も見られるようになる。戸外で思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを経験し、安全な遊具の使い方を知る。 ○植物の生長や自然に興味・関心を持ち、遊びに取り入れられるようにしたい。 ○友だちへの関心が強くなり、関わりを求める気持ちが大きくなる。友だちと触れ合える機会を作り、一緒に遊ぶ楽しさを味わわせたい。	○夏休み明けは不安な様子を見せるが、徐々に園生活のリズムを取り戻していく。一人ひとりが自分の思いを素直に表現できるようにしていきたい。 ○活発に体を動かして遊ぶことに興味を持つようになる。友だちとかかわりながら体を動かす楽しさを十分に感じさせたい。 ○身の回りの自然物や事象、いろいろな素材等に興味を持ち、かわりを持ったり接したりするようになる。一人ひとりがじっくりと活動に取り組む楽しさを味わえるようにしたい。	○一人ひとりの興味や関心が広がり、自分なりにやろうとする姿や頑張ろうとする気持ちが見られる。一人ひとりの子どもの気持ちや考えを受容し、やり遂げた充実感を持てるようにしたい。 ○友だちとかかわりの中で互いの思いが通じ合わないことでぶつかることがある。自分の気持ちを相手に伝えると共に、相手の思いに気づき、一緒に活動する楽しさを経験させたい。	○新しい活動にも進んで取り組み、試したり工夫したりして遊ぶようになる。年長組になる自覚を高めながら遊びや生活習慣について、自主的に取り組む態度を養いたい。 ○決まりを守ろうとする気持ちが芽生え、ルールのある遊びを楽しむようになる。また問題が起きたときは、自分たちで解決しようとする姿が見られる。 ○自分なりのイメージを膨らませたり、相手に自分の考えを伝えたりしながら、積極的に友だちと一緒に遊びが進められるようにしたい。
ねらい		○園生活に慣れ、安心して過ごす。 ○生活の仕方がわかり、出来ることは自分でしようとする。 ○保育者や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	○戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○友だちと互いの思いを出し合い、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○様々な素材に触れ、遊びに取り入れようとする。 ○身近な自然に触れて、興味、関心を育てる。	○戸外で思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○のびのびと行動したり自分の思いを伝えたりしながら友だちとかかわりを楽しむ ○いろいろな素材に親しみ、自分のイメージや思いを表現して楽しむ。	○遊びや生活の中で、友だちとかかわりながら遊ぶ楽しさ、活動する楽しさを味わう。 ○自分たちで遊びの場を作ったり、見たことや感じたことを様々な方法で表現したりして遊ぶことを楽しむ。 ○季節の変化に伴い生活の仕方が変わることを知る。	○いろいろな遊びに興味を持ち、自分なりの力を発揮して活動に取り組む。 ○クラスのつながりを感じながら遊びや生活を進める。 ○基本的な生活習慣や望ましい態度を身に付け、進級することへの自信を持つ。
指導内容の視点	・健康な心と体 ・自立心 ・協調性 ・道徳性、規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり、生命尊重 ・数量、図形、文字等への関心、感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現	○安心できる場で、気に入った遊びを楽しむ。 ○保育者や友だちの活動に興味を持ち、やってみようとする。 ○身近な自然（花びら、虫、木の実等）を取り入れて遊ぶ。 ○絵本や紙芝居を見たり、聞いたりして楽しむ。 ○自分の思いや感じたことを言葉で伝えようとする。 ○挨拶をすすんでしようとする。 ○感じたままに表現したり、役になりきって遊んだりする。 ○自由に描いたり、製作したりすることを楽しむ。 ○クラスのみんなと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しむ。 ○保育者や友だちに親しみを持って遊ぶ。 ○園生活に必要な決まりや友だちと楽しく安全に遊ぶためにはルールがあることを知る。 ○基本的な生活の仕方を知り、自発的に行おうとする。 ○友だちや保育者と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○友だちと一緒に食事する楽しさを味わう。 ○遊具や用具の安全な使い方を知る。 ○安心、安全に過ごすためのルールを再確認する。	○身近な動植物を見たり、触ったりし興味・関心を持つ。 ○土や砂・水の感触を楽しみながら遊ぶ。 ○夏野菜を育てることに興味を持ち、収穫を楽しむ。 ○自分の考えや思ったことなどを保育者や友だちに言葉で伝える。 ○自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら決まりを守る必要性がわかる。 ○身近な素材を使い遊びに必要なものやイメージしたものを作る楽しさを感じる。 ○集団遊びや学年、クラスの活動などに喜んで参加し、友だちに親しみを持つ。 ○園生活の約束を理解し、保育者の指示を聞いて安全に行動する。 ○身の回りのことなど自分でできることは自分でしようとする。 ○梅雨や夏を健康に過ごすために必要な生活の仕方を知る。 ○いろいろな食材に興味や関心を持つ。 ○いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ○遊具や用具の正しい扱い方を知り、安全に遊ぶ。 ○プールでの約束事を再確認して、水の感触を存分に楽しむ。	○自分なりに方法を工夫したり、試したりしながら遊ぶ。 ○身の回りの物の性質に遊びの中で気付く。 ○読み聞かせに興味を持ち、自ら進んで絵本を読んだり見たりする。 ○自分の思いや経験したことを積極的に保育者や友だちに話す。 ○様々な形や色、大小の組み合わせに気づき、遊びに取り入れる。 ○思いや考えを出し合いながら友だちと遊ぶ。 ○思い通りにならない時、相手にも思いや考えがあることを知る。 ○異年齢児や他の教職員や保護者などとかかわり、親しみを持つことで、人との様々なかわり方に気付く。 ○約束やルールを守ることで安全に気持ちよく過ごせることを知る。 ○集団遊びなどルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○自分の身の回りの物や使ったもの、また共同の遊具を付けようとする。 ○食べ物に興味や関心を持ち、いろいろな食材に親しむ。 ○跳んだり走ったりいろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶ。 ○音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。	○いろいろな素材を自分のイメージに合わせて工夫して使う。 ○季節による自然の変化に気づき、自然物などを取り入れて遊ぶ。 ○気付いたことや感動したことを保育者や友だちと伝え合う喜びを感じる。 ○物語の中の登場人物になりきり、イメージを表現して遊ぶ。 ○友だちと遊びの場を作り、イメージを具現化して遊ぶ。 ○自分の思ったことを言葉で表現し、相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 ○共同の遊具や用具を大切にし、片付けをする。 ○決まりの大切さに気づき、守ろうとする。 ○身の回りの始末や片付けを自発的に行なう。 ○健康的な生活に必要なことを知り、食べ慣れない物や嫌いな物でも、少しずつ食べようとする意欲を育てる。 ○手洗い・うがいの大切さを知り、自発的に行おうとする。 ○友だちと一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	○進級することに期待を持ち、楽しみにする。 ○この季節の自然の変化に関心を持ち、感動したり疑問を持つ。 ○保育者や友だちの話を聞いて、内容を理解したり、相手に言葉で伝えたりする。 ○遊びに必要なものを工夫して描いたり、作ったりし、それを使って友だちと遊ぶ。 ○友だちと一緒に遊びや活動を楽しみながら、やり遂げようとする気持ちを持つ。 ○自分の思ったことを言葉でのびのびと表現し、相手に受け止めてもらえた喜びを感じる。 ○良いこと、悪いことがわかり、考えて行動することができる。 ○簡単なルールを作り、友だちと一緒に遊びを楽しむ。 ○しなければならないことを自覚し出来ることは自分で行なう。 ○自分の健康に関心を持ち、様々な食べ物を進んで食べる。 ○寒さに負けず、戸外で全身を動かして遊ぶ心地良さを味わう。 ○健康、安全な生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。
	みなしずか	○みなしずかの歌を正しく覚える。	○みなしずかでは、正しい姿勢で目を閉じる。	○みなしずかでは、正しい姿勢で目を閉じる。	○正しい姿勢でみなしずかをし、心を落ち着かせる。	○みなしずかでは心を落ち着かせ、その後の話が最後まで聞けるようにする。
○環境構成の要点 ★保育者のかわり・援助		○年少組で経験した遊びができるように、親しんでいた遊具や材料を用意しておく。 ○遊具の種類を増やし、一人ひとりの子どもが自由に使い、無理なく新しいことに興味を持って参加できるようにする。 ○好きなことを見つけ、じっくり取り組めるような環境づくりを する。  ○身の回りの物や玩具の片付けなど自分でできるように絵やマー クを活用して分かりやすい環境を構成する。 ★新しい環境に戸惑わないように配慮し、安心感が持てるように する。また園生活の楽しさや生活の仕方を丁寧に知らせる。 ★一人ひとりが安心して過ごせるように、ありのままの姿を受け 止め、信頼関係を築いていく。	○子どもたちが自分から遊びや活動に取り組めるよう興味や関心 に応じて環境を構成する。 ○梅雨の時期や夏ならではの、季節を感じる環境を構成すると共 に、室内での活動が続く時は気持ちを発散できるよう工夫する ★自分で身の回りのことが出来るように個々の苦手な部分を援助 する。 ★保育者が仲立ちとなり、友だちとの接し方や遊びへの参加の仕 方がわかるよう場面をとらえて援助する。 ★一人ひとりの子どもを理解し、気持ちを受け止められた喜びが 感じられるような働きかけをして信頼関係を深めていく。 ★保育者が率先して新しい遊びの楽しさを知らせていく。 ★いろいろな素材や用具に触れる機会を設け扱い方を知り、遊び に取り入楽しさを味わえるようにする。 ★水分の補給、着替えなど個々の様子を把握して、自発的にでき るよう促す。 ★遊びや活動には個々ののペースで参加できるように配慮する。 また共感したり手助けしたりして、遊びの楽しさを感じられる ようにする。	○体を動かして遊びたい環境を園庭に作り、十分に運動が楽し めるようにする。 ○友だちとかかわりが持てる場を工夫し、一緒に活動する喜びが 味わえるようにする。 ○個々の子どもがそれぞれの興味に応じた活動に取り組めるよう いろいろな素材や用具を十分に用意する。 ★汗の始末、水分補給など体調管理が自発的にできるように配慮 する。 ★保育者も子どもと一緒に積極的に体を動かして運動する心地良 さを伝える。 ★子ども同士の模倣や認め合いを大切にしながら表現する意欲や 創造性を育てるように配慮する。 ★子ども同士で思いがぶつかる時は、自分の思いを言葉で伝え、 相手の思いに気付けるように援助をする。 また、気持ちを切り替えて遊べるように、その後の手立てを一 緒に考える ★遠足では、公共の場でのマナーに気付けるようにする。	○扱いやすい素材や作りやすい方法を保育者が提示して子どもの思 いやイメージが実現できるようにする。 ○感じたことや考えたことが実現できるよう保育者や友だちと一緒 に考える。 ○友だちと一緒に活動する楽しさが味わえる場を設け、簡単なイメ ージが伝え合えるような素材を用意する。 ○季節や事象の変化に触れる機会を持つようにし、戸外でルールのある 遊びを個や集団で楽しめるようにする。 ★友だちとかかわる中で互いの思いや考えなどを共有し、共通の目 的の実現に向けて考えたり工夫したり協力したりし、充実感が味 わえるようにする ★様々な表現が楽しめるように、一人ひとりの思いやイメージを受 け止め、共感する。 ★子ども同士がぶつかった時は一人ひとりの気持ちを受け止める。 その後、自分の行動を振り返る等相手の思いに気付けるようにす る。 ★自分たちで相談して、遊びの場を作る姿を認め、支えていく。	○様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、自分で考えた り、工夫したりして遊びが進められるようにする。 ○年長児との交流ができる場を設け、進級への期待が持てるよ うにする。 ★お互いの思いや考えを共有し互いに尊重したり認め合えるよ うに援助して、それぞれの子どもが充実感を持ってやり遂げ るようにする。  ★個々の姿を見守り認めていくことで自己肯定感を高めるよう にする。 ★戸外でのびのびと体を動かして遊ぶ。  ★同じ目的や興味を持つ友だちの考えが伝わるように援助し、 自分たちで遊びが展開できるようにする。  ★自身の心身の成長が感じられるように一年を振り返る。 ★進級への期待が高まっていくように、一人ひとりの実態をよく 把握し、年長組へとつなげていく。